

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の概要 (計画期間:平成 23~32 年度)

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画は、市民の日々の暮らしを支えるごみ処理行政において、特に注力しながら取り組むべき施策等を位置づけるものであり、「将来世代に引き継ぐごみゼロいわき」の具現化を目指し、「環境問題への対応を図りつつごみ処理コストを削減」するとともに「経営管理の仕組みを整備」し、時代に対応したごみ処理行政への転換を図っていきます。

<本市が直面する課題と目指すべき将来の姿>

【ごみ処理行政が直面する課題】

『人口減少と環境問題への対応』

本市では、平成 10 年の 361,934 人をピークに人口減少傾向に転じ、平成 32 年には約 31 万 1 千人、平成 42 年にはピーク時の 75% にあたる約 27 万 4 千人に減少することが予測されています。

(「新・いわき市総合計画後期基本計画(平成 22 年 11 月)」)

また、生活環境の保全はもとより、温室効果ガスの排出抑制といった環境問題への関心がこれまで以上に高まりを見せています。

市民の日々の暮らしを支えるごみ処理行政においても、様々な社会経済情勢の変化を踏まえながら、このような人口減少などにも対応できる仕組みを整備することが求められています。

【人口減少を適切に考慮しない場合に想定される影響】

- ・ごみは減少するが、処理システムの遊休化・非効率化が進み、「ぜい肉」の付いた高コスト体質へ
 - ・地方財政の制約が強まるなか、老朽化しつつある処理施設の機能維持に関するリスクが上昇
- これらによって、効率的・安定的なごみ処理に支障をきたし、市民の日々の暮らしに影響が生じる恐れ

【目指すべき将来の姿】

『将来世代に引き継ぐごみゼロいわき』

今後は、こうした人口減少など来るべき時代を展望し、「環境問題への対応を図りつつごみ処理コストを削減」と「経営管理の仕組みを整備」を基本的な方向性に各種施策を展開し、「将来世代に引き継ぐごみゼロいわき」の具現化を図っていきます。

ごみゼロを目指して進み続けること、それを次の世代に引き継いでいくことが重要であり、具体的には、老朽化した北部清掃センターの建替えを回避するため、ごみの約 9 割を占める焼却ごみの減量に、特に注力します。

【計画の位置づけ】

『あるべき将来像を具現化するための羅針盤』

本計画は、「廃棄物処理法」に定める法定計画でもあります。上位法である「循環型社会形成推進基本法」の考え方も踏まえ、「将来世代に引き継ぐごみゼロいわき」を具現化するための羅針盤となるもので、本計画で位置づけられた取り組みを踏まえ、市民や事業者の協力も得ながらごみ減量を推進していきます。

<将来像を実現するための施策>

『将来世代に引き継ぐごみゼロいわきの具現化に向けた主要な施策を位置づけ』

- ・「将来世代に引き継ぐごみゼロいわき」を具現化するため、「環境問題への対応を図りつつごみ処理コストを削減」と「経営管理の仕組みを整備」を基本的な方向性とし、発生・排出抑制を基本に焼却ごみや埋立ごみを可能な限り減量するための施策を展開します。
- ・そのため次の 5 つの主要な施策に取り組み、焼却ごみの徹底減量等を進め、老朽化が進んだ北部清掃センターの更新を回避し、平成 27 年度を目途に焼却施設の南部清掃センター1 場化を図ります。

発生・排出抑制を主眼とした家庭系ごみ減量施策

実践事例の収集と発信による生ごみの発生・排出抑制や、「市民総ぐるみ運動」のリニューアルによるごみ減量の新たな協働の仕組みづくりを展開

発生・排出抑制を主眼とした事業系ごみ減量施策

排出者責任の徹底を図るため、産業廃棄物と一般廃棄物の適正分別を推進

一般廃棄物ゼロ・エミッション推進

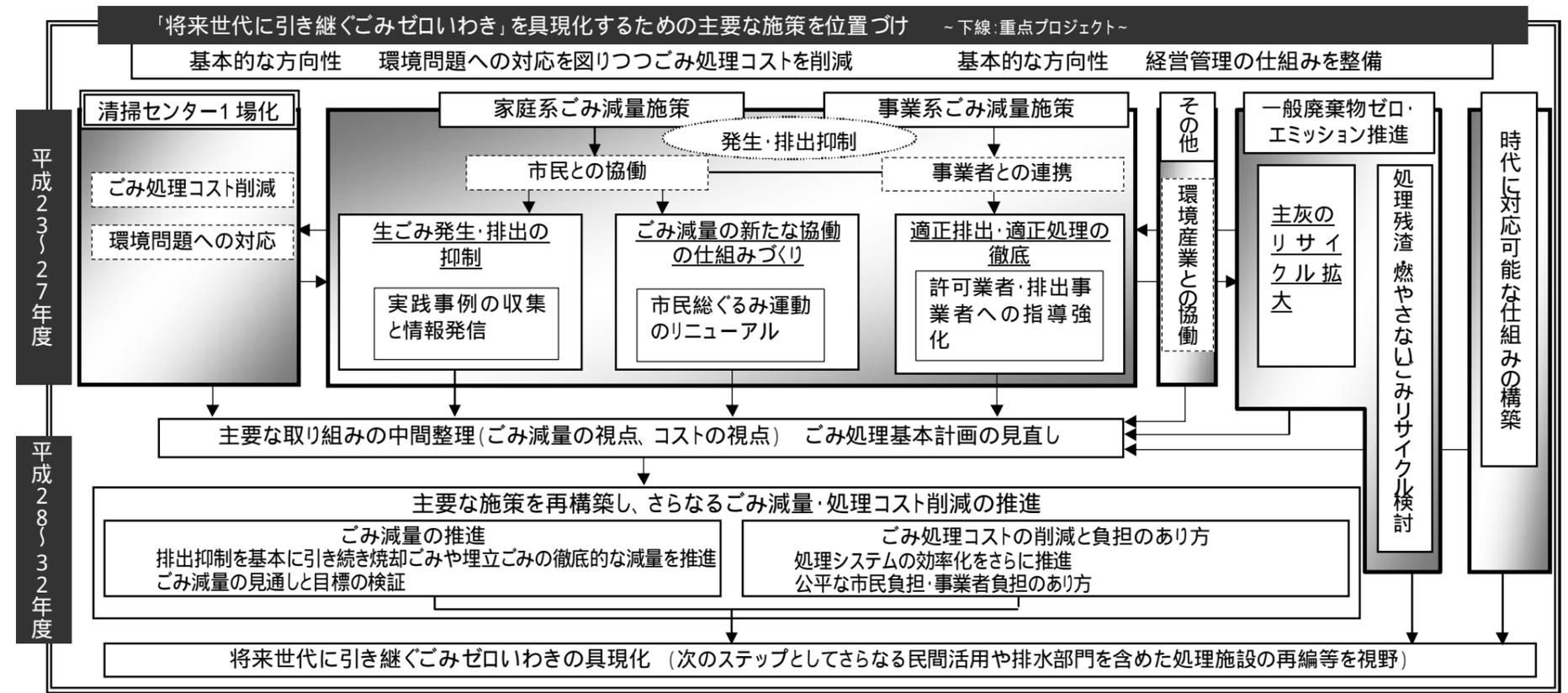
主灰のリサイクル拡大を進めるとともに、不燃系処理残渣や燃やさないごみのリサイクルを検討

ごみゼロいわきに向けたその他の施策

地域循環圏の考え方にに基づき、環境産業との協働をさらに推進

時代に対応可能な仕組みの構築

一般廃棄物会計基準によるコスト分析と長寿命化計画の運用を続けるとともに、限られた資源を最大限に活用するため、経営マネジメント手法の導入を検討



<計画の数値目標>

将来像の具現化に向け次のような数値目標を設定し、市民や事業者と実績を共有しながら、主要な施策の効果的な推進を図ります。

指標名 (H21 実績)	1 場化前	1 場化後
総費用 (46 億 5 千万円)	1 割	2 割
指標名 (H21 実績)	H27	H32
1 人 1 日あたりごみ量 (1,145g)	1,000g/人・日	900g/人・日

指標名 (H21 実績)	H27 目標	H32 目標
焼却ごみ量 (118,607 トン)	95,000 トン	80,000 トン
埋立処分量 (15,254 トン)	10,000 トン	5,000 トン
リサイクル率 (16.6%)	24%	24% 以上